

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会公報

No. 38 発行者/安海 靖郎

海外宣教連絡協力会事務局

東京都杉並区高井戸東2-25-11-308

☎168

Tel. (03)3335-3049

郵便振替 東京 6-106631

JOMAへの期待

安海靖郎 (JOMA会長)

主の世界宣教のお働きを通して、良きお交わりとご協力をいただいております皆様に、主の祝福をお祈りいたします。今年度より順番で、インマヌエル教団国外宣教局とアンテオケ宣教会が役員の任にあたらせていただくことになりました。30年の歴史を歩む日本の世界宣教も、JOMAの働きにも、新しい段階を迎えつつある様に思われます。特にJOMAの交わりと協力の内外に、色々な新しい事態と必要が起こってまいりました。皆様の祈りとご協力を期待しつつ、少しくお分かちさせていただきます。

1. 事務局長代行の引退

今日までJOMAは、初期の総主事を中心に働きが進められる時代、次に事務局長(代行)の時代と、必要、状況に応じて、良き器のもと進められてまいりました。長年労してくださいました聖書同盟の稲垣博史先生が、別の働きの任(JEA)に当たることになりました。今までの先生の献身的なご労と聖書同盟のご協力に、心より感謝を表わしたいと思います。今までの良き、JOMAを通しての協力、働きを、今後も進めていくために、次の体制の整備が急務です。

2. 世界宣教情報の必要

現在、日本より300名近い宣教師が派遣されています。おのおのの宣教団体及び宣教地とそのニーズの情報は行き渡っていると思います。しかし、他の団体(教会)の派遣宣教師と宣教地の可能性や必要の交流は、今後、ますます必要になると思います。世界宣教に関心、重荷のある方がそこに行けば、世界中で働く宣教師とその働き、新しい宣教師の必要と入国の可能性、条件、備え等の情報が入手できる場所、また、その情報が日本の諸教会に広く分かち

与えらる機関(センター)の必要は急務の様に思われます。

知ることなくして、重荷は湧かず、遣わされる道は整いません。イギリスのWECの本部は、ロンドンの郊外の小さなお城です。広い廊下に、10畝以上もあろうと思われる世界地図が描かれ、世界中で働くWECの宣教師の奉仕地とその必要——求められている新しい宣教師が示されていました。一つの団体で、1,000人近い宣教師を送り出している秘訣の一つと思われました。日本もJOMAレベルで、せめて、JOMA加盟団体の派遣宣教師及びその地の情報——特に新しい宣教師の必要と可能性についての、交流の必要を覚えます。

3. MK(宣教師子弟)の闘い

今、多くの宣教師が帰国(帰任)しています。色々な理由によりますが、その子弟の教育問題はますます大きくなっています。私の身近な方々で、宣教地で着実な実り多い奉仕をされつつも、子弟の教育のため、再派遣を断念しておられる方々が何人もおられます。同じ課題に17年間闘ってまいりました者として、心深く痛みます。主は、折々にかんった助け、道を備えて下さいます。しかし、宣教師にとっても、子供を教育することも主よりの使命です。英語のMK学校は、西カリマンタンにも2つありました。全寮制です。そこに子供を入れるのには、子供が英語人(?)になってしまう覚悟が必要です。費用も安くはありません。各宣教地には無理でも、日本で経験のある元宣教師が、両親代わりになって難しい時期のMKをあずかり、教育の場に通うための寮(施設)は、協力のもとに不可能ではありません。これは今後も、日本の宣教師の奉仕できる年数と大きな関係があります。欧米では、宣教師を送ることと、そのMKの教育をパックで考えます。この点、個々の団体一つ一つでは限界がありますが、協力の

もとに可能性を求める時期のように思います。

4. 外との協力

新しいJEAが生まれ、国際部が活躍されています。JOMAとの交わり、協力を探る第一回の交わりを持ちました。

この9月、AMAの総会と宣教大会が、日本で開かれます。アジアの国々で世界宣教の具体的なパイオニアの働きをしてこられた方々によって始められた宣教団体の協議会です。この交わり、会議で、私自身も多くの学びとチャレンジをいただきました。JOMAのアジアレベルの交わりと協力です。世界の貿易額の10%を手にする日本です。日本の教会は小さい、少ないのですというだけでは通じなくなっています。特に、一步、海外に出ればです。分相応な、しかし、誠実なお交わりが求められます。

現実に、このような様々な必要があります。一つ一つ、今後、良きお交わりと協力のもとにJOMAの働きが進められますことを祈って止みません。一人でも多くの宣教師を！そして、一年でも長く奉仕できるように、そして、その結果、帰国後、老後まで考えていく、世界宣教の課題を共に背負ってまいりましょう。

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」(ピリピ2章13節)



今年3月のJOMA海外宣教セミナーにて

JOMA海外宣教地図再刷のお知らせ

昨年11月に発行しましたJOMA海外宣教地図が、品切れとなっておりますが、この度再刷いたしました。購入をご希望の方は、JOMA事務局までご連絡ください。1部250円(送料別)

■ JOMA加盟団体および宣教師の動き ■

アジア福音宣教会

松元節子宣教師は、右ひざの手術後の経過をみながら、召神会卑南区内の諸教会で、特に婦人層と教会学校の奉仕を継続。

鷹羽富美子宣教師は、夏前に健康チェックのため一時帰国。7月に再渡台。香港福音自由教会開拓教会で引き続き奉仕。

松田猛宣教師家族は、引き続き台中市で、中国語習得に専念。客家人伝道への備えをしつつある。

アンテオケ宣教会

杉山星則宣教師一家は、北米の日本人教会にて奉仕。信生君、恵味さんが新しい環境に順応できるようにお祈りください。

熊井裕作宣教師は、北米の日本人教会にて奉仕。礼拝堂が与えられるようにお祈りください。

森敏宣教師は、ネパールにて農業指導。働きの祝福と共に、迫害も起こっているとのことですので、お祈りください。

田中久美子宣教師は、パキスタンにて医療伝道。4月より新任地での働きが開始されました。

長沢久美子宣教師は、韓国にてロー者伝道。静養のため帰国中。

在原繁宣教師は、アルゼンチンにて日系人伝道。ひどい経済的不況と凶悪な犯罪が頻発しています。お祈りください。

吉永輝次宣教師は、インドネシアの日本人教会にて奉仕。正式なビザ取得のためにお祈りください。

宣教師候補の大田祐作・伯子ご夫妻は11月までMTCにおいて訓練中。インドネシアへのビザ取得が速やかにできるようにお祈りください。

イムヌエル綜合伝道団国外宣教局

1991年は、宣教師の出入りの多い年で、台湾、フィリピン、パプア・ニューギニア、ジャマイカ、ケニア、ボリビア、及び、インドで、以下のような動きがありました。

(1)3月13日=梅田宣教師一家(5名)は、フィリピン/シニップシップにおける第一期3年の奉仕を終えて、報告のため帰国。聖書学校の責任を持って入るため、同年10月には第二期の奉仕に再赴任の予定。現在、全国イムヌエル教会を報告巡回中。

(2) 4月19日＝相原宣教師夫妻は、パプア・ニューギニア／ラエでの第四期、15年目の奉仕（教会形成）のために再渡航。

(3) 5月29日＝蔦田康毅宣教師一家（3名）は、第一期3年の奉仕を終え、報告のため帰国。現在巡回報告の奉仕中。日本語礼拝、北京語集會、そして、本年の9月からは台湾語礼拝の責任も持つため、9月5日には再赴任。この際、新しく蔦田聡毅師が、台湾／台中での働きに加わる。第一期3年の予定で共に渡航。インマヌエル台中教会の創設者、許洲木師は、9月をもって長年の奉仕から引退。

(4) 6月4日＝第二期の奉仕を終え、カリブ海域／ジャマイカ（トーリントン）より、植木英次宣教師一家（5名）が、報告のため帰国。8月には、アメリカに留学のため出発。

(5) 7月11日＝3年の医療宣教師としての奉仕を終え、ケニア／テヌウェックより三上喜恵子宣教師（ケニアの看護婦国家資格所有）帰国。富沢香医療宣教師は、なお奉仕中。

(6) 7月24日～30日、聖宣神学院院長、蔦田公義師他スタッフ1名、神学生3名、短期のインド／マドラスにおける奉仕に渡航。それに先立って、竿代信和師（名古屋教会牧師、元インド宣教師）は、南インド聖書神学大学院の理事に選出され、バンガラベットに渡航。今後毎年渡航の予定。インドでの、このような新しい形態での宣教活動が再開された。

(7) 7月29日（8月4日）＝第二期8年の教会形成他の奉仕を終えて、竿代照夫宣教師一家（5名）、ケニア／ナクルより報告のため、帰国。12月には再赴任。再赴任後は、ナクルを中心として、その地域に開拓された3教会の指導にあたる予定。

(8) 8月26、27日＝多くの宣教師の報告帰国が今年に集中した事に鑑み、国外宣教局では、国内の国外宣教局員をも含め「宣教師会議」を開催予定。宣教に関する諸問題を討議、懇談。9月3日には、年2回の国外宣教局局員会を召集。

(9) ボリビアでは、働きの重点をサンファンから、サンタクルスに移して、サンタクルスに「福音センター／宣教師館」を建設。日系人社会の多様必要に対応の予定。三森邦夫宣教師一家（5名）、1992年報告帰国予定。

(10) フィリピン／マニラ、蔦田緑乃宣教師は、ロサリスでの聖書学校での奉仕から、アジア・パシフィック・ナザレン神学大学院に移り、勉学中。

キリスト兄弟団海外宣教部

佐藤恵一師一家が、6月28日アメリカのアトランタでの在米日本人伝道宣教師として、成田より出発しました。これに先立ち、6月24日御茶ノ水クリスチャンセンターで派遣式が持たれました。

畑中孝三宣教師は、8月7日～9月3日まで、台湾の屏東、高雄、壽山、台南、嘉義の各中会の短期宣教に派遣されます。

国際福音宣教会(OMF)日本委員会

牧野直之宣教師は、続けてシンガポールの国際本部で新宣教師のオリエンテーションの責任者として奉仕しています。ストレスの多い仕事です。また同時にシンガポールにいるタイ人（多くの出稼ぎの労働者がいる）への伝道をしています。

木下理恵子宣教師は、台湾の高雄の武昌教会と協力し開拓伝道（特に工場労働者のため）の準備中。

教組の宣教師志願者が、日本委員会で受け入れられ、来年から加えられる予定です。

OMFのリーダー達が新しくなったのでお祈りください。総理として働くディビット・ピカード師夫妻のためにお祈りください。

聖書同盟

これまで東アジア太平洋地区として、オーストラリア、ニュージーランドなどをも含めた大きな地区協力をしてきた東アジア地区の各国聖書同盟は、この4月に理事会を開き、東アジア地区聖書同盟として新たな協力体制で活動を開始した。1992年5月には、オランダで全世界の聖書同盟関係者が集まる国際大会を開催することになっている。

太平洋放送協会

グアム駐在の後任候補者が与えられ、研修が開始された。

全ヨーロッパ在住邦人向け「世の光」は、TWRが電波料の半分を負担する事で継続され感謝！続いてフルサポートが与えられる様にお祈りください。

東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会

台湾の小野寺義尚宣教師は、日本と台湾のろう者の考え方や、ものの進め方が大きく異なり、改めて文化の違いに戸惑いつつ、更に宣教地の教会の自立のために奉仕しています。92年には香港に移る予定

でしたが、台湾の中華聾啞福音教会の基礎堅めの必要があり、もうしばらく台湾にとどまることになりそうです。

フィリピンの安森ハル宣教師、山内佐代子宣教師は、ジャングルの奥地にあるろう学校で教師、舎監として奉仕しています。両名とも、宣教地生活が長く、休暇や帰国後の問題が今後の課題です。また、年々滞在延期の更新が厳しくなっています。

南米宣教会

佐藤浩之宣教師夫妻、グアルーリヨス教会開拓の第二期目を迎え、現地教会への移行を準備中。

馬場千恵子宣教師、永久ビザ申請中。マナウス教会の諸奉仕及びマナウス日伯学校の日語教師として奉仕。

中田智之宣教師夫妻は、帰国中。日伯学校支援会の拡大のためにデピュテーション。夫人は耳の手術を行い、治療中。10月中旬帰伯予定。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

イスラエルに派遣している樽山啓子宣教師は、エルサレム最大のプロテスタント教会のスタッフとしての働きの他に、自宅で在エルサレムの日本人のための聖研、ユダヤ人のための聖研を開いている。ビザ取得に困難を覚えているので祈ってほしい。

香港で奉仕している佐藤信子宣教師は、香港のアッセンブリー教会の伝道所を担当しつつ、中国伝道の道を模索している。また、同じく香港の木村詔子宣教師も、アッセンブリーの一つの群れをあずかっている。

フィリピン（ルソン島北部山岳部）に派遣されていた佐々木正明宣教師は、現地を引き上げて、日本で問案、指導をしている。1992年2月で、宣教師としての働きを終了する予定である。

日本ウイクリフ聖書翻訳協会

昨年スタートした世界宣教週間（ミッション・ダイナミックス）。今年は4教会で奉仕（日本フリーメソジスト、南仙台キリスト教会、単立・弘前福音キリスト教会、フリーメソジスト・小金井教会、単立・宣教教会）。

第9回日本ウイクリフ夏期言語学講座に10名の受講生が参加。帰国中のメンバーが奉仕。

日本ウイクリフ初めての宣教体験キャンプを9月

に実施。

大鏑秀樹宣教師家族は9月末にパプアニューギニアでの第2期奉仕に出発。

夏期言語学講座のために一時帰国中の山見りつ子宣教師、虎川清子宣教師は教会訪問の後に、10月と11月にそれぞれフィリピンに帰還し、同時期にインドネシアからは小栗宏子宣教師、高田正博・優子宣教師が休暇帰国の予定。

日本福音自由教会海外宣教委員会

今のところ特別な変化はありません。

日本ホーリネス教団海外宣教局

ブラジルの大前信夫宣教師は、8月1～22日まで母親を見舞うため単身で帰国中。

木下理恵子宣教師（OMF委託宣教師）はOMFの項を参照。

フィリピンのエノプレ・ペドロ・悦子宣教師は、リウマチを患い、養生しながら伝道活動をしている。11月の初旬、ダバオ市で3日間の予定で行なわれる、超教派のルイス・パラオ大会に向けて、祈りながら準備中。また、ミンダナオ栄光教会の2人の姉妹が、去年の6月から2年間の予定で、留学生として来日。アルバイトをしながら、鳥取県倉吉市の洋裁専門学校で学んでいる。フィリピンに帰国後は日本で学んだ技術を生かして奉仕したいとのこと。

平田金次郎宣教師は、今年3月、9年間の台湾宣教を終えられ、今後は国内宣教にあたられる。埼玉県久喜教会の牧師に就任。

台湾の東台地区、アミ族（山地族）の台湾聖教会が、創立60周年を迎えたため、8月20～30日にかけて、日本から牧師や信徒が訪台。

12月には、稲尾三活師を団長にバングラデッシュ宣教ツアーが一週間の予定で行なわれる。また、12月末にはフィリピン宣教ツアーが予定されている。

リーベンゼラキリスト教会連合海外宣教委員会

近藤泉・美貴子宣教師一家は、この4月から主日礼拝を開始。現在の主な働きは、礼拝、祈禱会、光の子会、家庭集会、男性集会。教会住所：チャパクワ福音キリスト教会 Japanese Evangelical Church of Chappaqua, 120 King Street, Chappaqua, N.Y. 10514, U.S.A. Tel:914-747-9073（近藤宣教師宅）

リーベンゼラ・ミッション宣教再開40周年記念

集会を9月23日(月)に開催します。場所は青山学院講堂。午後：海外宣教アワー。どなたでも参加できます。

宣教地への祈禱ニュースとして、マイクロネシア(台風被害)、バングラデシュ(洪水災害)のために祈りください。

■■■今、必要とされている宣教師■■■

アジア福音宣教会

- ①客家(ハカ)の人たちへの開拓伝道の働き人。
- ②都市の工員労働者への伝道。
- ③日本語教師として教会協力の中での奉仕。

アンテオケ宣教会

パキスタンにおける田中久美子宣教師の同労者。

イマヌエル綜合伝道団国外宣教局

超教派の宣教団体ではなく、友好団体との連盟関係における一教派の宣教活動ですので、キリスト教会一般から宣教師候補を求めることはしておりません。しかし、①南インド聖書神学大学院で、最大限6か月、講義(英語)のできる短期宣教師、②現宣教地の各地における交替、また、拡大要員としての宣教師候補者、を必要としています。また、イマヌエル綜合伝道団の宣教に関するモットーは、「全世界の各国に、一人の証人を」ですので、宣教師支援の経済、また、支援体制の増強に応じて、いくらでも宣教師を必要としています。現に、インドネシア、ブラジル、シンガポール他から、宣教師派遣の要請を受けています。

国際福音宣教会(OMF)日本委員会

開拓伝道にあたる宣教師が求められています。教会形成のなかで、信徒訓練のできる宣教師が必要。タイのパヤオ神学校他、神学校で教える教育宣教師が必要です。宣教を公にできない鎖された国で、諸分野において専門家として働き、個人的に宣教する宣教師が必要です。

太平洋放送協会

TWR(トランス・ワールド・ラジオ)での奉仕者。

南米宣教会

- ①日系人開拓伝道に奉仕できる者。
- ②短期宣教師として、日本語、音楽、美術、体育などの教育活動のできる者。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

- ①ブラジルの現地日系アッセンブリー教会で奉仕する働き人。特に、日本語教師。
- ②タイで、日本語教師として働く奉仕者。
- ③フィリピンの山岳地帯での伝道を指導し、協力する働き人。

日本ウイクリフ聖書翻訳協会

いわゆる「閉ざされた国」を含めて、各地で翻訳宣教師、識字教育宣教師、教師、各種の技術を持った専門職の宣教師(コンピューター関係、言語調査員、医療関係、その他にもたくさんの分野で)が求められています。性別、年齢などの制限は特にありません。問い合わせは、〒168 杉並区浜田山4-31-7 日本ウイクリフ聖書翻訳協会へ(☎03-3313-5029 FAX 03-3316-6002)

日本ホーリネス教団海外宣教局

ダバオ/フィリピンのエノブレ・ベドロ・悦子宣教師の後継者のために祈っています。

リーベンゼラキリスト教会連合海外宣教委員会

- ①マイクロネシア/パプア・ニューギニアにおけるキリスト教主義高等学校教師、医師。
- ②バングラデシュにおける聖書教師、T E Eプログラム開発者・管理者。
- ③ザンビア/ザイルにおける看護婦、現地教会の開拓伝道者、牧師の協力者。
- ④エクアドルにおける開拓伝道者。

海外宣教短信

●6月に開かれた第3回日本伝道会議のテーマは「日本、アジア、そして世界へ」であった。発題や分科会において、海外宣教の問題が多く論じられた。この秋には、記録集が発行される予定。

●同伝道会議でも紹介されたが、アジア福音同盟(EFA)の機関紙ASIAN CHURCH TODAYには、アジア諸国の宣教の情報が毎月掲載されている。年4回発行。入手希望者は、EFA事務所(7, Armenian Street, #03-03 Bible House

Singapore 0617)へ。

●単立浜田山キリスト教会(東京・杉並)では創立30年を記念してアジア留学生基金の設置を決定した。アジアからのクリスチャン留学生に奨学金その他の援助をすることによって、アジアの諸教会との交わりを深め、世界宣教に関わろうという狙いとのこと。来年4月から、実施する予定。

■ J O M A 総会報告 ■

1991年度JOMA総会は4月15日(月)に御茶ノ水クリスチャンセンターで開催されました。加盟13団体からの代表が全員出席し、まず各団体の活動状況の報告が行なわれました。また、前年度の活動報告、会計報告が行なわれ、一部修正の上、承認されました。次に、91年度の活動計画案を審議しました。今年度の計画は、①宣教師志願者のためのハンドブックの発行、②啓蒙的なセミナーの開催、③JOMA通信の発行、その他と決定されました。なお、特に、JOMAと日本福音同盟との関わりを明確にすることが課題であることを確認しました。また、予算案が提案され、承認されました。新年度の役員の変更が行なわれ、アンテオケ宣教会とイムヌエル綜合伝道団が役員団体として推薦され承認されました。

総会終了後、南米宣教会派遣の佐藤浩之宣教師から、在日南米日系人伝道についての状況説明と訴えを聞く機会を持ちました。

■ J O M A 役員会報告 ■

これまで、5月17日、7月17日に第一回、第二回の役員会を開催しました。5月の役員会では、まず、会長に安海靖一郎(アンテオケ宣教会)、副会長に平位全一師(イムヌエル綜合伝道団国外宣教局)、書記に岩崎喜多男氏(南米宣教会)、会計に松元保羅師(アジア福音宣教会)を互選し、続いてセミナー開催について、宣教師志願者ハンドブックのまとめについて、AMA(アジア宣教協議会)およびJEAとの関わりについて、JOMA通信発行についての話し合いがなされました。

7月の役員会には、JEA国際委員会の舟喜信委員長を招いて、JOMAとJEAについての関わりについて懇談の時を持ちました。これまでの両者の関わりを振り返り、たがいに密接な協力の必要があること、今後、たがいにコミュニケーションのパイプを持つ必要があることを確認しました。

その他の議事としては、JOMAセミナーの開催

場所について話し合い、宣教師志願者ハンドブックの後書きの執筆者を決め、品切れのJOMA地図の増刷を決定しました。

また、JOMA事務局の移動のことが話し合われました。これは、事務局の責任者である聖書同盟稲垣博史総主事が、JEA事務局長を兼任することになったためです。

■ J O M A セミナー報告 ■

1990年度のJOMAセミナーは、「若者のための海外宣教セミナー」として、さる1991年2月28日～3月2日まで、奥多摩福音の家で開催されました。今回は、元OMF宣教師で現在日本福音自由教会協議会総主事小川国光師を主講師に、アジアの宣教史、宣教師の霊性、アジア宣教の現状と必要、アジア人宣教師の課題についての講義、また、分科会として、異文化への対応、国内の外国人への宣教、宣教師となるための具体的な準備、さらに現代における宣教師像などの学びを行ないました。参加者は、合わせて19名。職業も牧師、看護婦、主婦、会社員、教師、神学生など多彩でした。比較的に参加者数が少ないセミナーでしたが、主にある豊かな交わりを楽しみ、それぞれが新しいチャレンジを受けたセミナーでした。

1990年度会計報告・1991年度予算案

項目		90年度更正予算	90年度実績	91年度予算
収入の部	会費	648,000	672,000	672,000
	献金	150,000	159,000	150,000
	雑収入	300,000	357,337	275,000
	前年度繰越金	112,729	112,729	118,634
計		1,210,729	1,301,066	1,215,634
支出の部	セミナー費	70,000	69,294	50,000
	文書費	410,000	400,210	240,000
	役員会費	30,000	23,228	100,000
	事務所費	300,000	300,000	300,000
	事務費	260,000	258,690	250,000
	総会費	32,000	31,010	35,000
	総主事報酬	100,000	100,000	100,000
	予備費	8,729	0	140,634
支出計		1,210,729	1,182,432	1,215,634
当期余剰金		0	118,634	0
計		1,210,729	1,301,066	1,215,634